

司祭叙階18周年を祝う

18th SACERDOTAL ANNIVERSARY

ROMO FRANCISCUS XAVERIUS SRI WALUYO, SSCC

2004 of 18 June 2022

司祭叙階18周年だと気づいて、自分自身でも「すごい!」と思っています。ここまで来ることができたのも、間違いなく、支えてくださった教会の皆様とこれまで出会ったたくさんの方々のおかげです。

司祭といえども生身の人間なので、種々の弱さを身に負っている。この弱さに気づき、見つめ、その弱さを克服し、日々キリストに近づけるように祈り、少しずつキリストへと変えられて行くのである。司祭は自分の弱さに繰り返し向き合いながら、心の清めを行う人である。自分の弱さに向き合う姿を人々に示し、人々に回心の模範を示すのである。

司祭がキリストの姿に生きるためには、多くの人から見られ、さらされることが不可欠である。多くの人によって種々の視点から見られ意見されることで、人は司祭へと変えられていくのである。通常、人は弱い者とみなされ他人の下に置かれることを嫌がる。それゆえ自分の殻をかぶり、鎧を身につけて、人から意見されることを恐れ、自分を守り、他者を攻撃する。しかし本当の強さは「弱さを誇れる」(2コリン 12:9)ほどに心を主にに向けて開き、心のゆとりを得たときである。

人は口から出る言葉で、美しいことをいくらでも語りえる。しかし後ろ姿を示すことは容易ではない。司祭はキリストを後ろ姿で語る人である。後ろ姿は隠すことはできないし、あるがままに示すほかない。自分の気づかない部分が後ろ姿に現れるものである。後ろ姿は多くを語るものである。人はその姿を見て、その姿に近づこうとする。司祭はその人一人でキリストを十全に生きることは出来ない。司祭の総体が一人のキリストをある程度示せるにすぎない。

私の今の気持ちは、「私たちは、私たちに対する神の愛を知り、また信じています」(ヨハネの手紙一 4・16)ということです。これからしたいと思うのは、「正義を行い、慈しみを愛し、へりくだって神と共に歩むこと、これである」(ミカ書 6・8)ということです。今から願い求めるのは、「主よ、わたしが蒔いたあなたの種を、実らせてください」ということです。

18年間、司祭として働くことができたことに心から神さまに感謝したいです。さまざまな弱さをもち、数々の失敗もありますが、それでも主が私を許し、司祭として守り導き続けてくださることに心から神に感謝です。

聖なる父よ、司祭叙階の記念日に感謝をこめて祈ります。御子キリストの永遠の祭司職にあずかる恵みを受けた私たちが、聖霊の光に照らされて福音を絶え間なく宣べ伝え、教会に仕える者として使命を忠実に果たすことができますように。

山形教会、令和4年6月18日 フルヨ神父

司祭のための祈り

主イエスよ。

あなたは至聖なる聖体のうちにおられ、
あなたの司祭を通してわたしたちの間で永遠に生きておられます。
あなたの司祭のことばが、ひたすらあなたのことばとなり、
彼らの行いがあなたの行いとなり、
彼らの生き方があなたの生き方を真に示すものとなりますように。

司祭が神の民を代表して神に語り、
神の民に語りかけ、
勇気をもって奉仕し、
あなたのみ心のままに教会に仕えることができますように。

司祭が現代において永遠の神をあかしし、
あなたに従って歴史の道を歩み、
すべての人のために善を行うことができますように。

司祭がその務めを忠実に言い、
召命と使命を熱心に果たし、
司祭としてのあるべき姿をはっきりと現し、
与えられたたまものを喜びをもって生きることができますように。

聖母マリアに祈ります。
御子に最後まで従われたように
いつまでもあなたの司祭とともにいてください。
アーメン。

